



URL <http://tul.library.tohoku.ac.jp/>

—木這子（きぼこ）とは東北地方の方言で、こけしのこと。小芥子這子（こけしぼうこ）—

目 次

○学部1年生および学部研究生の書庫入庫について・・・ 1	○「科学者の卵 養成講座」第3回 「図書館情報検索実習」を開催・・・ 14
○本館学生用図書の貸出冊数を増やします・・・ 2	○日本学术会议第一・第二部会の 図書館所蔵資料見学について・・・ 14
○2011年度学生用雑誌の意向調査を実施・・・ 2	○平成22年度大学図書館職員長期研修に参加して・・・ 15
○2010年アメリカ図書館協会年次総会参加報告・・・ 3	○附属図書館の概要（統計）・・・ 17
○シリーズ 東北大学附属図書館分館等紹介 その6 電気通信研究所図書室・・・ 6	○会議・・・ 19
○附属図書館オープンキャンパス2010を開催・・・ 11	○編集後記・・・ 20
○八木山中学校職業体験学習について・・・ 13	

学部1年生および学部研究生の書庫入庫について

情報サービス課 閲覧第一係

かねてから要望のあった、学部1年生および学部研究生の本館1号館書庫入庫を、平成22年10月から可能としました。これまでの学部2年生以上の入庫と同様、「書庫利用ガイダンス」を受講することが条件です。ガイダンスは、本館で毎週開催しています。開催日や受講申込方法などは、本館内の掲示やメインカウンターでご確認ください。

学生閲覧室の16万冊に加えて、書庫の100万冊の蔵書を自分の手にとって利用することができます。

図書館が学生の皆さんの思考を刺激する「思索の空間」となることを願っています。



ガイダンス受講者に
配られる入庫シール

本館学生用図書の貸出冊数を増やします

情報サービス課 閲覧第一係

附属図書館では、学生用図書の充実とその活用に努めています。その一環として、また、学生のみなさんからのご要望もふまえて、平成22年12月中旬から、本館学生閲覧室の図書貸出制限冊数を5冊から10冊に増やすこととしました。運用開始日は、追って掲示やウェブサイト等でお知らせします。

また、本館の学生用図書については今年度購入分から、ジャケット（ブックカバー）を付けたまま提供しています。これも本館に寄せられた投書のご意見を反映しています。

学習・研究のために、ぜひふるってご活用ください。

2011年度学生用雑誌の意向調査を実施

情報管理課

平成22年7月20日から9月3日までの期間、本館の学生閲覧室に配架されている雑誌の2011年度（平成23年度）の購読について、学生のみなさんの意向調査を実施しました。学生閲覧室に配架している雑誌は、研究用に教員が選定するものとは異なり、主として学部生の学習及び教養のために図書館が主体となって選定してきました。

これまでは、新規購読希望などを随時受け付けるかたちで要望に応じてまいりましたが、さらに利用者のみなさんのご意見を直接反映させることを目的として、定期的に学生のみなさんに呼びかけ、新規購読のみでなく中止についても積極的に見直す機会を設けることとしました。

今回の調査では、以下のような手順で調査を行いました。

【新規】 所定の書式に、推薦理由も明記して提出。

【継続】 雑誌コーナーに掲示した雑誌リスト中で、継続購読を希望するタイトルにシールを貼付。

【中止】 上記の方式で継続希望が表明されなかつ

たタイトルを、暫定的に「中止候補」として改めて掲示・周知し、継続希望の有無を再確認。その上で、図書館内の委員会にて中止の妥当性を検討。

上記の調査の結果、新規購読希望には、計5誌の要望が寄せられ、委員会での検討の結果すべて購入することとなりました。一方で、継続購読の希望が寄せられなかった下記の4誌については、今年度で購読中止となりました。

- ・「Stereo」・「月刊環境未来」
- ・「短歌研究」・「American quarterly」

限られた経費ではありますが、必要な入れ替えなどを積極的に行い、学生のみなさんの希望を反映できる仕組みとして、今後も改善を図っていきたいと思います。

次回の調査は、2012年度分として来年5月頃の実施を予定しています。今後とも調査にご協力くださるようお願いいたします。

2010年アメリカ図書館協会年次総会参加報告

情報管理課 佐藤 初美

1. はじめに

2010年6月23日から28日まで、札幌アメリカン・センターのプログラムにより「2010年アメリカ図書館協会年次総会」に参加する機会を得た。この総会は、全米の公共図書館・学校図書館・大学図書館・専門図書館の職員など約3万人が参加する大規模なイベントである。今年もおよそ1,500ものセッションが、メイン会場となるワシントンD.C.のコンベンションセンターをはじめ複数のホテルなどで開催された。また、出版社等が参加するエキシビションには1,500ものブースが設置されるとともに、同じ会場の一角で図書館員によるポスターセッションなども開催された。以下、参加したセッション等のうち印象深い事項を中心に報告する。



会場となったワシントン・コンベンション・センター

2. 図書館訪問報告

年次総会参加に先立って、6月23日に国務省の図書室を6月24日に公共図書館を訪問した。

①国務省ラフルバンチ・ライブラリー (6月23日)

札幌アメリカン・センターの上位組織である米国務省（日本での外務省に相当）のライブラリーを表敬訪問し、その活動について説明を受けた。

職員数は24名で、主として国務省職員向けに資料・情報を提供している。海外の領事館職員あるいはアメリカに関する情報提供を行うアメリカン・コーナー（世界各国に113カ所）の職員などにも情報を提供している。現在では予算の75%程度を電子ジャーナル・データベースを中心とする電子情報に支出しており、価格の高騰に他図書館と同様悩まされているとのことだった。

この図書室の職員とは別に、前述のアメリカン・コーナー担当者として国務省内に30名ほどのライブラリアンが存在する。彼らはライブラリアンかつ外交官という身分で業務にあたり、省内での業務のほか、世界各地のアメリカン・センターに勤務することもあるという。

②アーリントン・セントラル・ライブラリー

アメリカの公共図書館の一つとしてアーリントン・セントラル・ライブラリーを訪問した。児童に重点を置いた伝統的なサービスのほか、郵送での図書貸出、ネットワーク環境の整備、図書館友の会との活動、ウェブでの豊富な情報提供と活発な活動を行っていた。

3. 年次総会セッション報告

6月25日から28日までの会期中、多くのセッションに参加したが、中でも印象深かったいくつかのセッションについて参加順に報告する。

① International Librarian Orientation

アメリカ国外から参加している図書館員のための、オリエンテーションを兼ねた交流会。配布されたリストによると参加登録者は約450名。学校

図書館、大学図書館などにテーブルに分かれて座り、総会の概要について説明を受けた。参加者相互のコミュニケーションに重点が置かれていたことを見ると、Library of Congress を会場に開催された最終日のレセプションと合わせ、人的交流を主目的とした位置付けであったように思う。

② Moving Students through the Information Literacy Ladder from High School through Community College to the College/Univ. Level

高校から大学にかけての学生に対する、高校教員と大学図書館員のインフォメーションリテラシーの連携活動の事例報告（3例）。参加者は約300名。高校までの”Google first”と称される環境から、アカデミックな情報を扱わねばならない大学での環境にスムーズに移行させるため、各地域で行われた連携活動が紹介された。高校と大学での環境の違いは日本と同様に大きく、そのギャップを埋めるための努力がかなり重点的に行われていると感じた。具体的には大学教員へのアンケート調査を実施し「入学したばかりの学生に何が欠けているか」を明確にしたり、高校生を大学図書館の見学に連れてきたりといった取り組みが紹介された。質疑応答も活発で、多くの図書館員がこれから取り組んでいかねばならない重要な課題のひとつと捉えているようだった。

③ Commons wisdom

Faculty Commons 設置への取り組み例の紹介（2例）。参加者は約200名。学生向けの Learning Commons を設置後、教員向けスペースとしての Faculty Commons 設置の意義と工夫点及び効果について紹介があった。目指したものは「Center for Academic Technology, Center for Teaching and Learning, Center for Writing Excellence」

との説明があり、具体的なスペースの設置例がスライドで紹介された。この取り組みの成果として「教員を啓発する場所・研究者の交流の場所・研究者の成果のショーケース」となりつつあることが最後に発表された。



セッション会場の様子

④ And the survey says

LibQUAL+®などを使った調査方法とその活用を探るセッション。参加者は約200名。各種調査を有効に利用して、サービスの改善、コスト削減、学習成果の向上などを目指したもの。自由記述などから、好意的・批判的・助言等あらかじめカテゴライズした用語を抽出し分析することで、より利用者の傾向が見えてくるなどの事例紹介があった。また、回答を多く集めるための手法として、景品をつけるなどの例が紹介されていたが、これは東北大学附属図書館でも実績があり、アメリカでも同様の傾向であることがわかった。また、調査をするにあたって、Goal を何に設定するか、なんのためのどんなデータが欲しいのか、など目的をあらかじめ明確にしておくことの重要性が繰り返し強調されていた。

⑤ Top Library Building trends

ライブラリコンサルタント・建築家らによる、これからの図書館建築に必要な視点を探るセッション。図書館から提供する資料の変化、求められ

る役割の変化など、今後短時間で建物の使われ方も変化していく可能性を重視し、フレキシブルな空間にしておくことがまずは重要とのことだった。家具等も、特定の利用を想定した特殊な形状ではなく、汎用的に使えるシンプルな形のもので可動式がよい、との提案があった。” Space is service machine!” とのキーワードが掲げられ、図書館の伝統的なサービス内容を見直しながらスペースを作っていくべきであること、それには「4Fs」すなわち「Function, Flexibility, Form, Feedback」を常に念頭に置くことが必要である、とのことであった。館内の照明についても言及があり、利用者が拡大している i-Pad のようなディスプレイが机に対して水平であるものに対しても今後配慮が必要とのことであった。質疑応答では、デジタルサイネージ(電子看板)の効果的な使い方や、館内のセキュリティの確保、人件費を抑えるための建築のヒントなどについて多くの質問があった。

4. その他

①総会全般

大規模な総会にもかかわらず、会の運営自体はスムーズだったように思う。ただし、事前の参加登録を担当した札幌アメリカン・センター図書室の牛丸さんによると事務上の不手際も目につき、大規模なイベントを運営する上での難しさを感じたとのことだった。

会期中は、Elsevier 提供によるインターネットカフェ、Gale 提供によるホテル間のシャトルバス、Springer 提供のオフィシャルバッグなど、多くの大企業の協賛が目立った。

②セッション

各セッションは朝 8 時から開始され一時間半ずつに区切られ、夜は 22 時終了のものまであった。

各自、好きなセッションに参加するわけだが、期待に反する内容だった場合は、早々に別の会場に移る参加者も多かった。また、おおかたの参加予想に基づいた大きさの会場が割り当てられているようだったが、開始時間ぎりぎりに会場に行くと席が満杯でフロアに直接座って聴講する人も目立った。

今回参加したセッションは、時間の半分程度を質疑応答に確保していて、盛り上がったセッションだと質問者用のマイクの後ろに絶えず人が並んでいるような状況が見られた。

③エキシビション

ブースが多すぎて一回ではまわりきれず、各参加者ともセッションの合間などに数回にわけて会場を訪れていた。公共図書館の職員向けの児童書などの展示が目を引き、著者サイン会も頻繁に行われたことで多くの人で賑わっていた。データベース、システムベンダーなどのブースでもデモが常に行われており、総会の参加者カードを読み取らせると、後から製品情報などが送られてくる仕組みとなっていた。

同じ会場で開催されたポスターセッションには残念ながら最後の短い時間でしか訪ねることができなかった。スケジュール調整の失敗である。

5. おわりに

このプログラムにお誘いいただいた札幌アメリカン・センター図書室の牛丸由恵さんに、まず感謝したい。今回本当にいろいろなことを見、聞き、経験することができて非常に貴重な機会であったと心から思う。

総会の内容自体は前述したようにさまざまに印象深いものがあったが、同行した日本の 5 名の公共図書館の方々とも交流する機会を得ることがで

き、図書館員としての考え方の幅の広さなどにも
目からウロコが落ちるような思いがあった。

最後に、長期間職場を不在にすることを快くご

承諾いただいた上司のみなさま、同僚のみなさま
に感謝したい。ありがとうございました。

(さとう・はつみ)

シリーズ 東北大学附属図書館分館等紹介 その6

電気通信研究所図書室 ～時の流れにさまよえるライブラリー～

電気通信研究所図書係 吉植 庄栄

1. はじめに

『さまよえるオランダ人』(Der fliegende Holländer) というリヒャルト＝ワーグナー (Richard Wagner) の歌劇があります。



図1 電気通信研究所図書室の入口

映画やコマーシャルの音楽で希に使用される事もある曲ですからご存知の方もいるのではないのでしょうか。

これはオランダ人の幽霊船が各地の海、この世と煉獄を「さまよう」という話です。そして幽霊船の船長は最後に乙女の愛で救われるという話です。¹ 曲は印象深い雷のような開始部から始まるのですが、電気通信研究所図書室へ至る建物の入口もある意味、印象深い衝撃的な入口です。

否！それを言いたかったのではなく、現在に至る沿革やらこれからの変化やらを考えると、この「さまよえるオランダ人」という曲が非常に暗示

的なのです。電気通信研究所図書室自体が研究所内の各所を「さまよ」い、そして青葉山移転計画でも「さまよ」い続ける図書室だからです。図書室が安住の地を見つけることができるのはいつのことなのでしょう。以上の事も含めてうまく紹介できれば嬉しいです。

2. 沿革

電気通信研究所は、昭和10年9月26日に東北帝国大学に設置されました。電気通信研究所自体は工学部電気工学科を母体に、電気通信分野の独立専門附置研究所として発足したものです。母

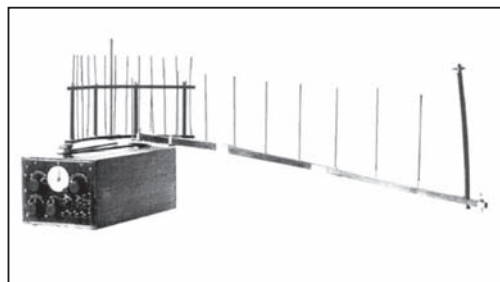


図2 八木・宇田アンテナ



図3 八木・宇田アンテナを描いた通研のシンボルマーク

¹ 《オペラ》「さまよえるオランダ人」ドイツの作曲家ワーグナーの全3幕のオペラ (1843)

◆ハイネの『シュナーベレヴォプスキー氏の回想』やハウプの『幽霊船の物語』を題材に作曲家自身が台本を書いた、神を呪った罰で永遠に海上をさまよう運命を負ったオランダ

人の船長を、乙女の愛が救う話。
“The Flying Dutchman [タイトル]”, e-プロGRESSイブ英和中辞典, ジャパンナレッジ (オンラインデータベース), 入手先< <http://na.jkn21.com> >, (参照 2010-09-29)

体となった電気工学科では八木・宇田アンテナ（大正14年）、マグネトロン（昭和2年）の発明など大きな研究成果を上げていました。

図書室は昭和26年10月に開室されました。その頃、当研究所の研究施設拡充や研究部門再編成が行われており、それに伴い当室は同時並行的に設置されたのです。昭和38年には現在の旧南六軒丁地区に電気通信研究所の新棟が竣工しました。電気通信研究所は開所以来、永らく電気工学科と施設を共用していましたが、開所26年目にして遂に独自の建物を持つこととなりました。これが現在の1号館S棟です。図書室もここに存在してありました。その後、廃止された旧工業教員養成所が当所の2号館になり、図書室は2号館の2階に移転します。そこを経て平成14年に現在の図書室へ移転します。現在は旧大型計算機センター時代、サーバ室であった部屋を閲覧室や書庫に転用しています。²

来年で図書室は60周年を迎えますが、その間4つの図書室を経てきた訳で、時代とともに場所も規模も様変わりしてきたのです。

3. 立地

さて現在図書室がある南六軒丁キャンパスについて若干紹介したいと思います。

南六軒丁キャンパスは片平キャンパスの最南端にあります。電気通信研究所の建物が大半を占めます。地下鉄五橋駅に近く、交通の要衝というべき立地にあります。

また最南端の道路を挟んでさらに南側には東北の私大の雄である東北学院大学があります。当所の南端通用門をでると目の前が土樋キャンパス

で、東北学院大学の中央図書館も徒歩5分と至近です。そのため私大の図書館ならではの話を教えていただいたり、困った時に相談にのっていただいたりなど、大変お世話になっております。図書館職員としてそのことから、この立地は絶好のスポットと感じています。

かつて神聖ローマ皇帝フリードリヒII世（Friedrich II [1194—1250]）³はドイツ皇帝でありながら、北アフリカを目の前にするパレルモ（シチリア島）に起居することが多く、イスラム世界との交易や交流を通して卓越した見識を持っていたと言います。十字軍を率いる立場なのに、アラビア文字の刺繍を入れるマントを着るなど合理的な思惟の持ち主だったようで「玉座の上の最初の近代人」という称号がそれを物語っているのですが、電気通信研究所図書室も別大学を目の前にする立地を生かして、情報交換を進め、図書館をより良くするにはどうしたらよいかを、ことある毎に勉強させて頂いております。

4. 紹介



図4 シュネーダー記念東北学院大学中央図書館

電気通信研究所図書室は蔵書数約4万5千冊の小規模図書室です。開館時間は9:00-12:00, 13:00-17:00で、それ以外の時間は

² これら沿革は、

- ・東北大学百年史編集委員会編集，東北大学百年史 七 部局史四，p. 286-302
- ・東北大学電気通信研究所ホームページ：沿革
<http://www.riec.tohoku.ac.jp/syoukai/preface/index-j.shtml>（閲覧日：2010.9.13）
や、関係者への聞き込み調査による。

³ シュタウフェン朝のドイツ国王（在位1212～50）、神聖ローマ皇帝（1220～50）。皇帝ハインリヒ6世とシチリア王女コン

スタンツェの息子。父帝が若死にしたため（1197）、シチリアの母后のもとで育てられた。（中略）着々と近代的統治機構を整え、学芸を奨励して、後世の歴史家から「王座の上の最初の近代人」と称賛されたが、十字軍に不協力のかどで教皇から破門され、以後教皇との確執に悩まされた。（後略）[平城照介] 日本大百科全書（ニッポニカ）、ジャパンナレッジ（オンラインデータベース）、入手先<<http://na.jkn21.com>>，（参照2010-09-20）



図5 図書室全体図

電気通信研究所に所属している教職員学生であれば、入室できます。ということで、所属者にとっては24時間、ほぼ1年を通して利用することが



図6 「ぱっかん机椅子 (仮称)」
上：収納時 下：展開時

できます。

まず入室すると明るめの閲覧室が皆様をお迎えます。ここは新着雑誌、そして参考図書のコーナーです。

ここには図書室を一番代表すると言っても過言ではない「ぱっかん机椅子 (仮称)」があります。これは通常は可動式机なのですが、座るために引っ張ると図6の様展開するという優れたものです。この意外性と愛らしさから、この「ぱっかん机椅子」を目当てにおいでになる図書館職員の方も少なくありません。スペースに限りのある図書室にお勧めです。

そのほか最近話題のラーニングコモンズを小規模ながら模したスペースがあり、ここで利用者はインターネットを活用した作業に取り組むことができます。

このデスクは円を三分割しており、一人あたり



図7 閲覧室とパソコンコーナー：ミニラーニングコモンズ

のスペースは広く取ってあるほか、備え付けのPCもノート型 (Windows7) なので、作業するのに場所を気にしない構成になっております。

その他、一般的な閲覧席も4台設置しており、室内には無線LANを飛ばしているのので、持参のPCでの作業もできます。

続いて奥に進んでみましょう。奥は「書庫」と称していますが、開架書庫です。大まかに言って右手に図書、その奥に和雑誌の製本、また左手に洋雑誌の製本を主に配置しています。左手の最奥には2008年に解散した半導体研究所の蔵書が配置されています。これは元総長である西澤潤一先



図8 半導体研究所旧蔵書

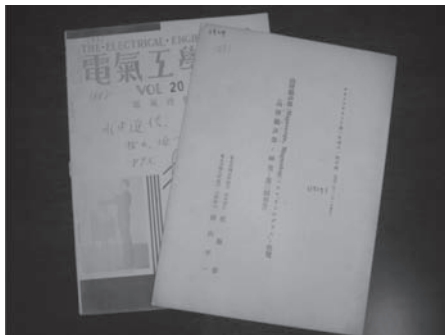


図9 抜山平一先生コレクション

生ゆかりの文庫なので、半導体やダイオード関係の図書や学会関係資料、はたまた西澤先生著の一般向け図書が所収されております。

その他、初代所長抜山平一先生の寄贈図書や元原稿も所蔵しております。

また、24時間開館をしていることもあり長時間滞在型の利用者を考慮して、仮休憩のコーナーを2か所設置しています。

5. コンセプト



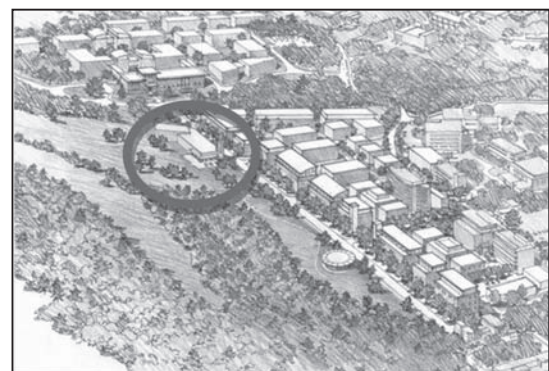
図10 スリーピング commons (仮称)

図書室は、24時間不休不眠の研究所を学術情報の面でサポートするのが本務です。よって24時間の入室を可能にしており、必要な時はいつでも資料入手ができるのがコンセプトです。ですが近年の電子ジャーナルの進歩から、学術情報入手の主流は図書室から研究室の端末に移動したことは否めない事実です。

しかし利用者は、夜遅く一人でやってきて机に向って頑張っている人が相変わらずいます。また数人でやってきて深夜に激論を闘わしているグループも居ます。それは何故でしょうか？それは図書室が資料を利用するスペースという意味付けからむしろ個人的な作業をするスペースに変化を遂げた結果だと考えております。自宅・研究室のデスクでも学習・研究・作業はできます。が、研究室以外で行うべき作業、そして自宅に機器が無い場合などがあると思います。

ですが、図書室が研究所の皆さんにとって時間も気にせず自由に使えるスペースであれば、自宅、研究室（という名の職場）以外の第三の場所⁴という空間としての存在価値があると考えられます。また長時間作業をすることから滞在時間も長くなりますので、その間の飲食等もどうしようか、とよく考えてしまいます。

6. 『それから』

図8 新青葉山キャンパス鳥瞰図⁵
※円内が新理系図書館

⁴ スターバックスカフェの理念：第三の場所＝サードプレイスを参考にした。

“家庭や職場・学校に次ぐ第三の生活拠点。私たちはそんな“サードプレイス”を目指して、これからも新たなチャレンジを続

けていきます。”

<http://www.starbucks.co.jp/company/stores.html> (2010.9.20 閲覧)

色々な意味で「それから」です。

まず小さな「それから」は、電気通信研究所の青葉山移転計画です。図書室も青葉山に移転し、雨宮から移転してくる農学分館と合併し、「新理系図書館」になる予定です。その新理系図書館では、電気通信研究所図書室と農学分館の所蔵資料が一緒になるだけでなく、全自動書庫や、閲覧スペースのほぼ4分の1を占めるラーニングコモンズ群、そしてインストラクションエリアなど最新の設備が建造される予定です。仮住まいを続けていた我々電気通信研究所図書室も晴れて超弩級館の一翼を担い、青葉山の一角に定住の地を得ることとなります。これまで60年の歩みを振り返ると、なんと有難いことでしょうか。今から新図書館に学生教職員がごった返す光景を夢想することができます。

新理系図書館は現電気通信研究所図書室と同じように24時間入館可能であり、ついに飲食も可能となる予定です。それに合わせて青葉山という隔離した空間で長時間滞在するための工夫や施設の数々が付与されます。地下鉄も完成すると、駅から至近ということで更なる活性化も見込まれています。最近の日本国の景気を巡る状況は、決して良くはありませんが、早く実現して欲しいな、と思っております。

しかしこれで図書室の「さまよい」は終わりではありません。

その様な意味で次に大きな「それから」です。

「図書館・図書室」というもの自体が、現代は「さまよ」っていると思います。「図書館・図書室」とは一体何者であるのか？ただ学術資料の保管庫に徹すれば良いのか？それともPCを大量に配置すれば良いのか？「図書館・図書室」というもの自体が、過渡期にあるのです。

我々はその様な渦中においても、「時の流れ」に従って図書室の中を変えていかねばなりません。

ん。

具体的に言うと先述した「冊子資料→電子媒体」「図書室＝資料入手場所→作業場所、議論の場所、グループの打ち合わせの場所・・・」といった変化です。これらに対応して、小さな図書室であれ中味を変更していかねばなりません。むしろ小さな図書室だから小回りがきいて、流れを追いやすいかもしれません。最新の設備を入れるのは難しいですが、その時代時代に適合した、使い勝手の良い電気通信研究所図書室を目指して、更なる深化をしていこうと考えております。

7. 終わりに

これまで電気通信研究所図書室を様々な角度から紹介しました。青葉山移転計画の延期が続いており、現時点（平成22年9月現在）ではいつ移転が発令されるのか分かりません。

そのため「いつか」なくなるこの場所で「いつか」できる新理系図書館を夢見て、試行錯誤している状態が続いています。慣れ親しんだ片平を離れるのもつらいですが、移転後は「天国のような」新理系図書館に変身することができます。

「山のあなたの天国へ！」

「されど、乙女の愛はいずこに？」

「図書館・図書室」の意味をめぐる「さまよ」いは当面しばらく続きそうです。

電気通信研究所図書室はいつまで「さまよう」のでしょうか？「さまよう」ことも楽しみながら約束の日を夢見て、今日も明日も来られる方々をもてなしたいと考えております。

それではまた。

(よしうえ しょうえい)

⁵ 東北大学新キャンパス構想 — フレームワークプランより
http://campus.bureau.tohoku.ac.jp/tu_fwp.html (2010.9.20
閲覧)

附属図書館オープンキャンパス 2010 を開催

附属図書館では7月28日（水）・29日（木）の2日間にわたり「東北大学オープンキャンパス」の一環として、「附属図書館オープンキャンパス2010」を開催いたしました。本館・各分館での内容等を紹介します。

【本館】

内容は館内自由見学のほか、図書館職員による館内見学ツアー、図書館探検オリエンテーリング、附属図書館の蔵書を用いた「お江戸の数学」展等を実施し、高校生をはじめご父兄の方々や教師の皆様方にも大学図書館を実感していただく絶好の機会となりました。図書館の広大さ、蔵書の多さ、古典資料をはじめとする資料の多彩さに驚きや感嘆の声が寄せられ、2日間延べ6,466人の入場者により盛況のうちに終了することができました。



（特設たれ幕を眺めつつ入館する高校生）



（オリエンテーリング回答者にはエコバッグを進呈）

【医学分館】

医学分館では日本における西洋医学黎明期資料「解体新書」「解体発蒙」の展示・解説と、現代医

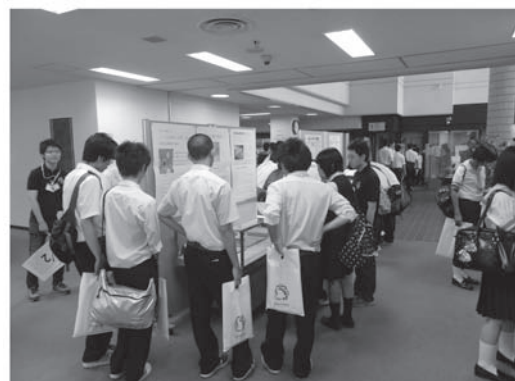
学発展の契機となった重要な研究を論文等の資料により紹介する「医学の夜明け—その発展と未来—」と題する展示を行いました。

医学部では毎年学生が見学者のグループ（1グループ15名程度）を引率して主要な場所を案内する見学ツアーが行われますが、医学分館にも100グループ（約1,500名）が来館し、興味深そうに展示物をのぞいたり案内役の学生に研究の内容について質問する場面などがみられました。

また、見学ツアー以外の来館者には臨時の案内カウンターを設けており、昨年よりも33%多い720名が訪れました。



（医学分館の展示コーナー）



（医学部学生引率による見学ツアー）

【北青葉山分館】

北青葉山分館は、館内自由見学を主として2日間で延べ915名の入場者がありました。

エントランスホールでは「お江戸の数学」ミニ展示を行い、最後の和算書と呼ばれる「和算開式法」（熊谷藤吉著）の資料展示も行いました。



(エントランスホールでの「お江戸の数学」ミニ展示)

【工学分館】

工学分館では、「東北大学工学系の歴史」と「工学部生の生活」のパネル展示、「50minでわかるコウガク」のDVD上映をエントランスホールで行いました。



(垂れ幕で工学分館をアピール)



(エントランスホールでの展示とDVD上映)

2日間の入場者数は合計1,114名(前年度比312名増)で、来館者に記念品として鉛筆(2本セット)を配布しました。また、今年は垂れ幕を作成し、工学分館をアピールしました。

【農学分館】

農学分館では、「農学部の歴史／捕鯨を考えよう」と題し、パネル(写真と年表)と関連図書の展示を行いました。

2日間の入場者数は410名で、捕鯨に関する問題(ペーパー)を出題し、展示図書等で調べて解答してくれた方にエコバッグをプレゼントしました。



(展示「農学部の歴史」と「捕鯨を考えよう」を見る高校生)



(エコバッグが欲しい! 捕鯨クイズに挑戦中)

八木山中学校職業体験学習について

情報サービス課 閲覧第一係

本館において、8月23日（月）～25日（水）の3日間、仙台市立八木山中学校の職場体験学習を受け入れました。体験に訪れたのは2人の中学2年生です。

図書館の仕事は貸出・返却のみのイメージが大きいため、ここでは、図書館の仕事を構造的に知ってもらえるよう、図書系の9係を巡るプログラムとしました。各係の説明、体験内容は係毎にアレンジしてもらいました。

また、事前に右のような質問事項が届き、これらにはあらかじめ回答資料を準備しましたが、④や⑦⑧はそれぞれの説明者が話をするようにしました。⑦については、どの説明担当者もなんと答えたものか困っていたようですが、中学生らしい質問とも言え、興味深いものがありました。

体験に来た中学生たちは学校とは全く異なる環境で、見知らぬ大人に囲まれ、緊張し、かなり疲れもしたようです。しかし、体験後に届いた感想に、“裏側の仕事の大変さ”“とても簡単なイメージがあったけど思った以上にハードでやりがいがあった”の言葉に、こちらの意図は伝わったので

はないかと思います。また、我々にとっても、子供達に何を伝えられるのかという、普段とは異なった視点から仕事を考えさせられた有意義な体験であったと思います。

＜中学生から事前に来た質問＞

- ① この職場のやりがいは何ですか
- ② どのような人が主に図書館を利用していますか
- ③ 一日でどれくらい利用する人がいますか
- ④ なぜこの職業についたのですか
- ⑤ 本は全部でどのくらいありますか
- ⑥ 一日でどのくらいの本が貸し出しされますか
- ⑦ 上下関係は中学の時の何倍ですか
- ⑧ この職場で一番大変なことはなんですか



「科学者の卵 養成講座」第3回 「図書館情報検索実習」を開催

北青葉山分館

東北大学では平成21年度から科学に興味を持つ高校生を支援するプログラム「科学者の卵 養成講座」を実施しています。

その一環として、8月2日（月）に「図書館情報検索実習」と題し、講義・実習を行う機会をいただきました。

当日は87名を受け入れ、薬学部の端末室で工学分館職員の説明のもと、データベースや電子ジャーナルの基本的な利用方法を実習しました。

それらを初めて使うであろう参加者たちは、皆真剣に説明を聞き、積極的に画面操作していました。アンケートでは、「家に帰ってからも使いたい」という感想が多く寄せられました。

併せて北青葉山分館職員による分館見学も行い

ました。蔵書数や古い年代の資料に驚いたといった声が聞かれました。

「科学者の卵」の事務局には多くのご提案・ご助言をいただき、大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。



日本学術会議第一・第二部会の図書館所蔵資料見学について

情報サービス課

1) 日本学術会議第一部会開催に伴う見学会

平成22年7月24日（土）に、日本学術会議第一部会（人文・社会科学）が本学で開催されたことに伴い、貴重書見学会を本館貴重書展示室で行いました。

見学会には会議出席者およそ30名が参加され、当館が所蔵する国宝「類聚国史」や「アインシュタインの書簡」（土井晩翠宛）などを、附属図書館協力研究員の曾根原助教の説明のもと見学しました。





2) 日本学術会議第二部会開催に伴う特別展示

また、8月27日(金)には第二部会(生命科学)が本学で開催されたため、特別展示を本館展示室で行いました。展示した資料は「解体新書」、「蘭学事始」、「和蘭医学問答」など、附属図書館本館や医学分館が所蔵する歴史的な医学資料です。

展示は当日限りでしたが、会議関係者10数名のほか、学生・教職員や一般の方も含めておよそ70名が見学されました。



平成22年度大学図書館職員長期研修に参加して

金属材料研究所総務課図書係 勝本 加奈子

1. 研修の概要

平成22年7月5日から16日の2週間、筑波大学春日キャンパスで開催された「大学図書館職員長期研修」に参加する機会を得た。今回で42回目となるこの研修には、全国の31大学から同年代の図書館職員36名が受講した。

研修内容は、大学図書館の経営や学術情報流通等に関する講義を中心に、問題発見・解決演習、企画書を作成する班別討議、筑波大学附属図書館の見学等、多岐にわたるプログラムが用意されていた。大学や図書館が現在直面している様々な課題について、民間企業を含む第一線の講師から直接講義を聴き、日頃なんとなく理解しているつも

りていた事柄についても、改めて整理することができた。

本稿では、これらの中から特に印象深かった点について紹介する。

2. 「電子書籍元年」

講義中何度も耳にしたのが、今年は「電子書籍元年」と言われていることである。iPadやKindle等の閲覧端末が日本でも発売され、一般に普及し始めている。学術分野の書籍についても、今後電子化が急速に進むことは確実と思われ、図書館においても、いよいよ本格的に紙媒体から電子媒体へと移行する時期に来ていると感じた。

3. マネジメント

大学図書館は、電子資料への対応だけでなく、館内環境の整備、外国雑誌価格の高騰、経費削減、職員の定員削減など、課題が山積している。その中で、利用者が満足するよりよいサービスをいかに提供するかが重要であり、そのために必要なのがマネジメントの視点である。

この研修では、大学図書館と職員の役割や、マネジメントに関する講義が多数あった。これまで、自分に与えられた目前の仕事をこなすだけで精一杯だったが、これからは図書館だけではなく、大学や政府の学術政策の動き等にも視野を広げ、自分の役割を意識しながら仕事を進めていく必要性を感じた。また、博報堂の久地楽氏の講義では、物事を「人ごと」ではなく「自分ごと」として捉える視点が提案され、大変印象的だった。

4. 「着眼大局・着手小局」

この言葉は、閉講式の際に筑波大学附属図書館の逸村副館長が話された言葉である。目標は大きく、でも実行は小さなことからコツコツと積み上げていこう、という意味だ。大きな理想や目標に向かうとき、大きな成果をすぐに出すことを考え

て、かえって消極的になったり後回しにしたりしてしまいがちだが、現実を分析し、自分ができることから少しずつ実行する大切さを学んだ。

5. 最後に

研修に参加して、新しい知識や仕事への取り組み方へのヒント等、大きな成果を得られた。また、全国の仲間と出会えたことも大きな収穫であり、貴重な財産となった。研修で学んだことを今後の業務に役立てていきたい。

最後に、親身にお世話くださった主催者の筑波大学附属図書館と、2週間の長期間にもかかわらず、快く送り出してくださった上司・同僚に深く感謝したい。

(かつもと・かなこ)



附属図書館の概要（統計）

この概況は毎年実施される大学図書館実態調査のうち主な項目をとりまとめたものである。

表1は平成18年度～平成21年度の概況、表2は平成21年度部局別のものである。

表 1

区 分		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
蔵 書	和	1,839,042	1,868,864	1,904,048	1,938,631
	洋	1,887,686	1,902,098	1,911,588	1,915,214
	計	3,726,728	3,770,962	3,815,636	3,853,845
所蔵雑誌数	和	32,672	36,808	38,128	39,197
	洋	39,613	37,240	38,008	38,608
	計	72,285	74,048	76,136	77,805
年間受入数	和	33,555	37,843	41,608	47,584
	洋	21,257	19,613	20,028	24,824
	計	54,812	57,456	61,636	72,408
年間雑誌受入数	和	9,281	10,253	10,276	10,141
	洋	7,869	6,746	6,600	6,422
	計	17,150	16,999	16,876	16,563
奉仕対象者数	学 生	18,441	18,436	18,478	18,748
	教 員	2,675	3,426	3,844	3,882
	計	21,116	21,862	22,322	22,630
一人当り奉仕対 象	蔵書数(冊)	176.4	172.4	170.9	170.2
	年間受入冊数(冊)	2.6	2.6	2.8	3.2
	図書館資料費(千 円)	46.0	48.1	44.4	43.9
図書館職員数	総 数	129	134	157	137
	専 任	62	63	66	57
	臨 時	67	71	91	80
図書館職員1人当り奉仕対象者数		163.6	163.1	142.1	165.1
図書館資料費(千円)		969,699	1,053,617	990,523	993,752

表 2

部局	蔵書(平成22年3月31日現在)				平成21年度受入冊数				21年度経費				施設(平成22年3月31日現在)												
	図書(冊数)		雑誌(種類数)		図書(冊数)		雑誌(種類数)		図書資料費		運営費		図書(冊数)		施設(種類数)										
	和	洋	計	和	洋	計	和	洋	計	和	洋	計	和	洋	計	和	洋	計							
職員数()は定員外職員の内数(館長・副館長・分館長含まず)																									
本館	59 (35)	967,483	603,460	364,023	39,986	24,330	15,656	227,34 (1,3582)	16348 (11591)	6391 (1991)	7,978 (2,959)	5,329 (1,235)	2,644 (1,724)	53,250	261,781	410,702	51,452	771,185	378,471	1,152	18,215	5,706	4,729	1,796,500	
文学	2	479,226	313,654	165,572				8,838 (5,067)	5266 (3168)	2118 (1559)				42,126				42,126	4,867	0	68	0	0	3,500	
教育	2	112,143	68,047	44,096				1,228 (866)	774 (438)	276 (128)				4,296				4,296	9,183	17	200	59	107	27,389	
法学	3	291,359	184,117	157,242				4,425 (3,136)	2266 (1540)	1842 (1226)				34,351				34,351	20,526	24	705	35	540	81,028	
法実	2	16,834	15,742	1,092				2,819 (1,521)	1888 (1,022)	455 (433)				9,327				9,327	0	2	189	11	156	25,278	
経済学	4	395,632	207,538	188,094				3,081 (949)	2125 (881)	1270 (340)				10,948				10,948	33,565	24	279	43	132	21,944	
生命	1	31,126	18,036	13,090				0 (0)	0 (0)	0 (0)				0				0	2,482	4	452	20	400	22,500	
多元研	3	80,021	22,233	57,788				1,250 (33)	590 (129)	238 (43)				2,079				2,079	12,902	11	917	86	482	127,667	
流通研	1	34,614	13,239	21,375				174 (40)	40 (17)	97 (8)				266				266	2,888	16	207	22	127	39,167	
通研	2	48,372	15,831	32,541				3,208 (398)	1864 (200)	2253 (147)				6,280				6,280	17,899	40	579	86	381	56,000	
サイコロ		5,787	895	4,892				28 (23)	6 (6)	1 (1)															
アジア研	2	29,269	20,795	8,474				2,497 (394)	1738 (638)	905 (134)				3,426				3,426	5,280	0	120	0	110	22,917	
小計	81 (51)	2,491,866	1,433,587	1,055,279	39,986	24,330	15,656	48,514 (25,640)	32,711 (19,630)	15,838 (6,010)	7,978 (3,092)	5,329 (1,235)	2,644 (1,724)	166,349	261,781	410,702	51,452	890,284	489,033	1,290	21,941	6,068	7,161	2,223,890	
金研	5	82,095	18,285	63,810	1,408	437	971	908 (416)	371 (214)	537 (262)	298 (73)	181 (50)	112 (23)	15,239				15,239	17,886	29	534	154	253	65,833	
中計	86 (51)	2,573,961	1,451,872	1,122,089	41,394	24,767	16,627	49,457 (26,056)	33,082 (19,844)	16,375 (6,212)	8,268 (3,092)	5,510 (1,285)	2,756 (1,747)	181,588	261,781	410,702	51,452	905,523	508,919	1,319	22,475	6,222	7,417	2,289,723	
医学分館	19 (12)	428,050	170,806	257,244	13,696	4,714	8,982	6,344 (2,501)	3,818 (2,349)	2,498 (1,52)	3,038 (1,245)	1,597 (422)	1,442 (823)	13,162				13,162	109,254	431	4,476	688	2,384	447,611	
北青葉山分館	10 (6)	374,139	76,784	297,355	9,124	2,149	6,975	5,278 (3,375)	2,373 (2,057)	2,905 (1,318)	2,113 (574)	826 (113)	1,258 (461)	25,105				25,105	61,927	248	3,356	1,140	1,310	328,250	
工学分館	17 (8)	341,699	164,490	177,209	7,785	3,670	4,115	8,570 (6,890)	6,137 (4,400)	2,433 (691)	1,021 (231)	598 (460)		36,288				36,288	122,527	348	5,355	2,460	605	295,000	
農学分館	6 (2)	135,996	74,679	61,317	5,806	3,897	1,909	2,759 (1,815)	214 (167)	615 (440)	1,193 (297)	333 (142)		11,868				11,868	30,634	105	1,279	317	418	136,111	
小計	52 (28)	1,279,884	486,759	795,125	36,411	14,430	21,981	22,951 (13,581)	14,502 (10,571)	8,448 (3,010)	4,631 (2,807)	4,631 (921)		86,433	0	0	1,796	86,229	324,342	1,132	14,466	4,605	4,717	1,206,272	
合計	138 (79)	3,853,845	1,938,631	1,915,214	77,805	39,197	38,608	72,048 (39,637)	47,584 (30,415)	24,824 (9,222)	16,363 (5,839)	10,141 (2,006)	6,422 (3,653)	268,021	261,781	410,702	53,248	993,752	831,261	2,451	36,941	10,827	12,134	3,496,695	

会 議

22. 7. 28 平成 22 年度第 3 回附属図書館運営会議

■協議事項

1. 平成 23 年度以降の学術情報の整備について
2. 学部 1 年生等の本館 1 号館書庫入庫について

■報告事項

1. 国立国会図書館へ提出済学位論文（博士）のデジタル化実施に係る著作権処理手続きについて
2. 平成 22 年度第 1 回川内地区図書委員会について
3. 平成 22 年度第 3 回学術情報整備検討委員会について
4. 平成 23 年度概算要求について
5. 平成 22 年度総長裁量経費について
6. 図書館情報処理システムの更新について
7. オープンキャンパスについて
8. 図書館ホームページの更新について
9. 「東北大学附属図書館本館利用に係る申請書等の様式について」の改正について
10. 企画展について
11. 事故報告について

22. 9. 6 平成 22 年度第 4 回附属図書館運営会議

■協議事項

1. 平成 22 年度計画について
2. 学部 1 年生等の本館 1 号館書庫入庫について
3. 本館資料貸出条件の変更について

■報告事項

1. 平成 22 年度第 4 回学術情報整備検討委員会・学術情報資料選定小委員会（合同会議）について

2. 平成 22 年度部局評価について

3. 朝日新聞「大塩平八郎の肖像画」記事について
4. 「特別長期利用」に関する問合わせについて

22. 7. 29 平成 22 年度第 3 回附属図書館商議会

■協議事項

1. 平成 23 年度以降の学術情報の整備について
2. 学部 1 年生等の本館 1 号館書庫入庫について

■報告事項

1. 国立国会図書館へ提出済学位論文（博士）のデジタル化実施に係る著作権処理手続きについて
2. 平成 22 年度第 1 回川内地区図書委員会について
3. 平成 22 年度第 3 回学術情報整備検討委員会について
4. 平成 23 年度概算要求について
5. 平成 22 年度総長裁量経費について
6. 図書館情報処理システムの更新について
7. オープンキャンパスについて
8. 図書館ホームページの更新について
9. 「東北大学附属図書館本館利用に係る申請書等の様式について」の改正について
10. 企画展について

22. 9. 9 平成 22 年度第 4 回附属図書館商議会

■協議事項

1. 平成 22 年度計画について
2. 学部 1 年生等の本館 1 号館書庫入庫について

3. 本館資料貸出条件の変更について

■報告事項

1. 平成 22 年度第 4 回学術情報整備検討委員会・学術情報資料選定小委員会（合同会議）

について

2. 平成 22 年度部局評価について
3. 朝日新聞「大塩平八郎の肖像画」記事について

編 集 後 記

過去 113 年間で一番の暑さと気象庁が発表し、毎日のように熱中症や酷暑関連のニュースが世間を騒がせた夏から一転、しのぎやすい今日この頃となりました。

既に前号の木這子編集後記でも触れられていますが、2011 年に附属図書館は 100 歳の誕生日を迎えます。

東北大学の誕生から遅れること 4 年、1911 年（明治 44 年）6 月 14 日に附属図書館は生まれました。それから 100 年間、“研究第一”を標榜する東北大学において、教職員・学生・地域の方々の研究活動等をサポートしてきました。

時代の流れが非常に速くなってきている昨今、今後 100 年、200 年と皆さんをサポートし続けられるよう、附属図書館も日々進化しています。

その 1 つとして、12 月には図書館システムの更新が予定されています。皆さんが普段利用している図書や雑誌の検索画面や、MyLibrary がより便

利に生まれ変わる予定です。

また、附属図書館のホームページもシステムの更新に合わせてリニューアル予定で、より使いやすいページにするべく現在図書館員みんなで知恵を出し合っているところです。こちらもどのように変わるのかぜひ楽しみにしててください。

その他にも、来年は、百周年記念事業として例年より大規模な企画展の開催や記念出版物の刊行、各種イベントなどが計画されており、その準備が着々と進められています。

これらの記念事業を通して附属図書館について広く知ってもらうことはもちろん、カウンターや講習会以外で利用者みなさんと直接接する機会が少ない図書館員と利用者みなさんとのコミュニケーションを活発にしていけたらいいなと願っています。

附属図書館の 100 歳の誕生日を、多くの方たちとお祝いできたら嬉しい限りです。



東北大学附属図書館報「木這子」第 35 巻第 2 号（通号 131 号）発行日 平成 22 年 9 月 30 日

発行人 片山 俊治 広報委員会委員長 加藤 信哉

発行所 東北大学附属図書館 〒980-8576 仙台市青葉区川内 27-1

電話 022-795-5911 FAX 022-795-5909

URL <http://tul.library.tohoku.ac.jp/>